

3 省農薬米に対する消費者の評価

農業センター

1) 取り上げた理由

近年、環境保全意識・安全志向が高まってきており、宮城県の主要農産物である米に対する関心度を明らかにすることも今後の米生産にとって重要である。そこで、消費者の米に関する購買意識と省農薬米の購入意向や価格の価値観を明らかにしたので参考資料とする。

2) 参考資料

(1) アンケートを実施し、消費者の米の購買意識と省農薬米の購入意向を把握した。

- a 調査場所 : 仙台市, 岩沼市の大型スーパーマーケット
- b 調査時期 : 平成9年6月から7月にかけて
- c 調査対象者: 来店した消費者704名

(2) 消費者の米の購買意識

- a 米の購入に際しての消費者の意識は「味」, 「安全性」を重視する傾向があるといえる(図-1)。
- b 「味」に影響する要素としては「産地」と「銘柄(品種)」をほぼ同程度と見ている(図-1)。

(3) 省農薬米の購入意向

- a 農薬を削減して栽培した米は、価格が高くなっても約75%の消費者が購入すると回答した(図-2)。
- b 農薬を「50%削減」した場合の購入価格の上限は、平均値は16.5%増(慣行栽培米の価格を100とすると116.5)、中央値は10%増、最頻値は10%増であった。
- c 「無農薬」の場合の購入価格の上限は、平均値で20.3%増、中央値で15%増、最頻値は10%増である(図-3)。

3) 対象地域等 県下一円

4) 特に留意すべき事項

(1) 利用上の留意点

農薬「50%削減」は「有機農産物等表示ガイドライン(農林水産省)」の減農薬栽培農産物に相当し、同じく「無農薬」は無農薬栽培農産物に相当する。

今回の調査では化学肥料の使用の有無を明記していないので無農薬栽培であっても有機農産物とは限らない。

5) 背景となった主要な試験研究

(1) 研究機関及び担当部科名 農業センター営農機械部経営生活科

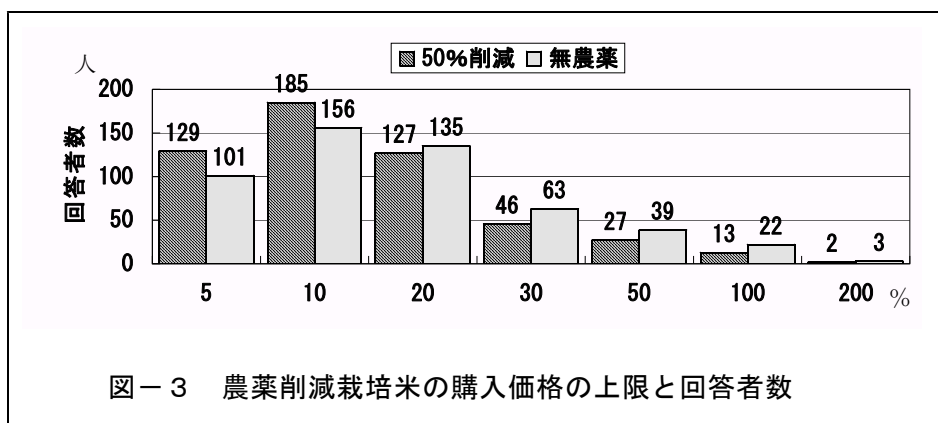
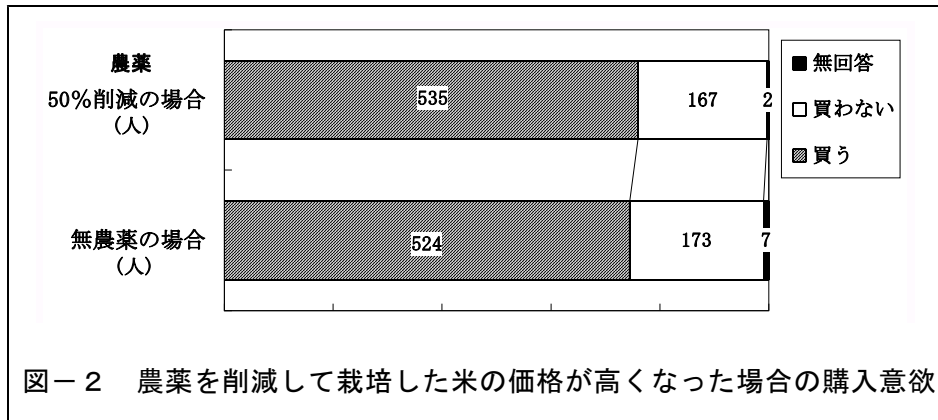
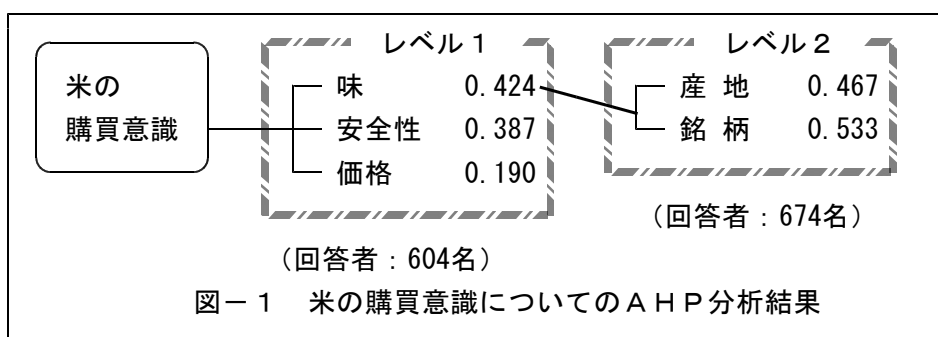
(2) 研究課題名及び研究期間 ササニシキ I L 系統利用と発生予察システム精度向上による水稻病害の総合防除技術の確立

(3) 参考データ

- a 消費者の購買意識の調査の評価基準としては、「価格」, 「安全性」, 「味」の3点(レベル1), また、「味」を決める評価基準は大きく「産地」, 「銘柄(品種)」の2点とした(レベル2)。

この各項目をAHP（Analytic Hierarchy Process）により一対比較して個人のウェイト（重要度）を計算し、これを基にして回答者全体の総合的なウェイトを算出した。

- b 総合的なウェイトは「味」と「安全性」に約4割のウェイトがあり、また「価格」に対するウェイトが約2割と低かった。消費者は購入する米を「味」と「安全性」と重視して選ぶ傾向があるといえるが、「味」に影響する要素として「産地」と「銘柄（品種）」はほぼ同程度と見ている（図－1）。
- c 米生産時の農薬を慣行より「50%削減」と「無農薬」の2段階に設定し、これらの米に対する消費者の購入意欲と購入価格の上限（許容できる最高価格）を算出した。
購入価格の上限の質問には、選択肢方式で慣行栽培米価格の「1%増」から「200%以上増」までの20段階の上限価格を設けた。
- d 農薬を削減して栽培した米の価格が高くなった場合の購入希望者は、「50%削減」の場合、「無農薬」の場合ともに回答者の約75%である（図－2）。
- e 購入価格の上限は、農薬を「50%削減」した場合と「無農薬」の場合を比較すると平均値、中央値に差はあるがその差は小さい（図－3）。



(4) 発表論文等

平成9年度東北農業試験研究成果情報（東北の新しい技術）